



西村証券

チーフストラテジスト
門司総一郎の

ウィークリーレポート

2021年
12月14日
発行

第 116 回

「2022年の株式市場見通し」

～日経平均は3万5千円～

初めに

今年もあとわずかとなりました。日経平均は3万円を超える場面もありましたが、長くは続かず昨年末比変わらずで、フラストレーションが溜まった方も多かったと思います。しかし来年は様変わり、日経平均の3万5千円もあると見ています。今回はそう考える理由を説明します。

日本株は割安

理由としてまず挙げられるのが、日本株が割安なことです。直近のPERは日本の13倍に対して米国は22倍、日本の方がかなり割安と言える水準です。業績好調にもかかわらず株価が反応しなかった結果ですが、さすがに行き過ぎだと思えます。来年はこの割安感が解消される形で日本株が上昇と見ています。

業績好調は続く

今年度の企業業績は未だかつてないと言えるものになりそうです。上場企業の5社に1社が最高益更新との見方もあるようです。自分は足元の業績好調が一過性のものとは見ていません。絶え間ない技術革新に支えられた半永久的なものとして見ています。

インフレと金融政策

来年の株式市場を考える上で大きなポイントになるのがインフレと金融政策です。インフレは一時的なものでいずれ収まると高を括っている方も多いようですが、自分の見方は違います。景気好調や地球温暖化など様々な原因が積み重なった結果であり、簡単には終わらないと見ています。自分は早期に引き締めを実施、インフレを抑え込むことが肝要と見ていますが、特に米FRBの対応が来年の世界の株式市場にとって大きなポイントと考えています。現時点での自分の見方は、来年1-3月中には利上げを開始、その後も状況に応じて継続するといったものです。利上げは景気や株式市場に悪影響を及ぼしますが、だからといって先送りするとインフレが更に拡大し、経済への影響は深刻化する恐れもあります。これは株式市場にとってのリスクシナリオです。

利上げと株式市場

株式市場にとって利上げは悪材料ですが、その影響は国によって異なります。最も影響が大きいと思われるのは米国です。これまで米国の株式市場はFRBの金融緩和によってもたらされた流動性を原動力として上昇を続けてきました。従って利上げにより流動性が吸収された場合、他市場に比べてその影響は大きいと思われます。一方相対的に影響は小さいと思われるのが日本です。流動性が株式市場に流入している気配はほとんど見られず、株価もそれほど上昇していません。各国が金融引き締めへ転じて日本株が受ける影響は相対的に小さいと思えます。

(次回に続く。)



チーフストラテジスト
門司さんにきいてみよう!



西村証券株式会社 NISHIMURA SECURITIES Co., Ltd.
京都市下京区四条通高倉西入立売西町65番地(本社)
TEL:075-221-9390(本店営業部)

金融商品取引業者 近畿財務局長(金商)第26号
加入協会:日本証券業協会 主な事業:金融商品取引業
指定紛争解決機関:特定非営利活動法人 証券・金融商品あつせん相談センター

本書面は特定の金融商品の勧誘を目的として作成したのではなく、あくまで情報提供を目的とした書類です。書面上の株式市場見通し等は、本書面作成時の当社予想ですが、その後の市場動向・結果・影響等について当社が保証または責任を負うものではありません。また内容については予告なしに変更される場合もあります。本書面の著作権は当社に帰属します。当社の文章による承諾なしに、第三者への配布・コピー等はご遠慮ください。